



お  
や  
す  
み  
か  
ら

お  
ほ  
ほう  
う  
ま  
で

成人向  
R18

流刑地  
LITTY

〈寝てる師匠の身体で性欲処理する話〉



# 登場人物紹介



アーバイン  
(師匠)

郊外に工房を構える技術者  
たまに流れ着く異世界の遺物を解析、改造して売りさばいている

その知識と技術はこの世界の文明レベルを超えているが、  
周囲の人々からはただの変り者の発明家として認識されている。

身体の殆どを異世界の技術で改造しているためとても強い

口が悪い



弟子

天涯孤独だったところをアーバインに拾われた。  
それからは雑用兼弟子として働いている。

性欲が強く、アーバインのことを性的に見ている

アーバインによる実験(暇つぶし)により、  
下半身をキャタピラにされたり、肩に衣装フックをつけられたり、  
ときには発光したりするように改造されたりしている。

そのため街ではほぼ化け物のような扱いをされており  
人里に降りると悲鳴が上がる。



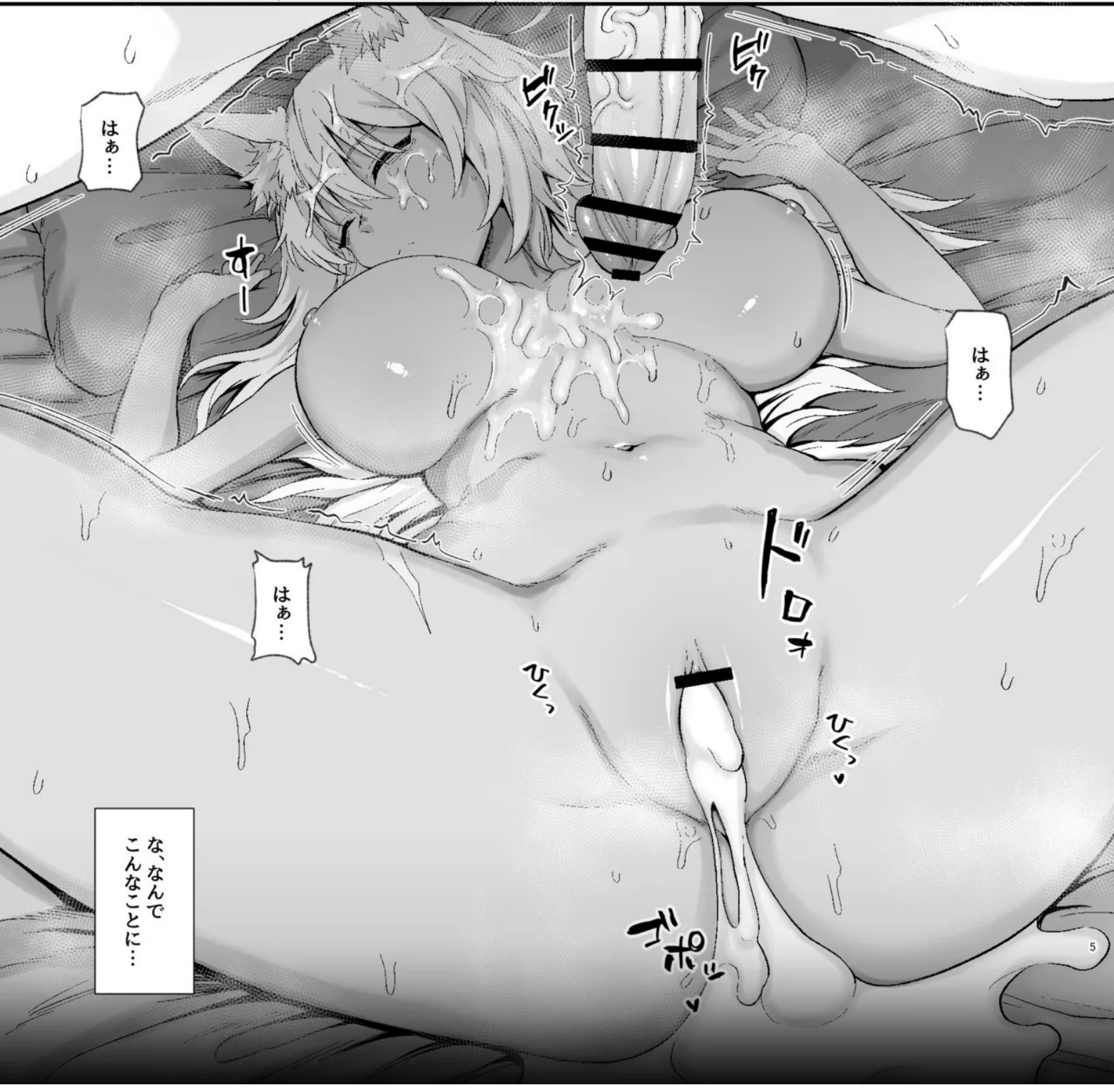


うう…師匠の顔だ…  
でっけい…

ハッ  
ハッ  
ハッ

ハッ  
ハッ  
ハッ

うー



はあ…

はあ…

はあ…

な、なんで  
こんなことに…

ハッ  
ハッ  
ハッ

ハッ  
ハッ  
ハッ

シロカ

ハッ

ハッ

ハッ  
ハッ  
ハッ

ずっと昔に  
孤児だった  
俺は拾われた

ちようど雑用が  
欲しかったらしい

師匠は有名な人だ

わざわざ物乞いの  
ガキを拾う必要  
なんてなかったと思う

雑用は楽しかった。  
生まれて初めて誰かに  
必要とされた気がして

そのうち、師匠は  
雑用だけじゃなく  
仕事も教えてくれた

でも…

お前さあ

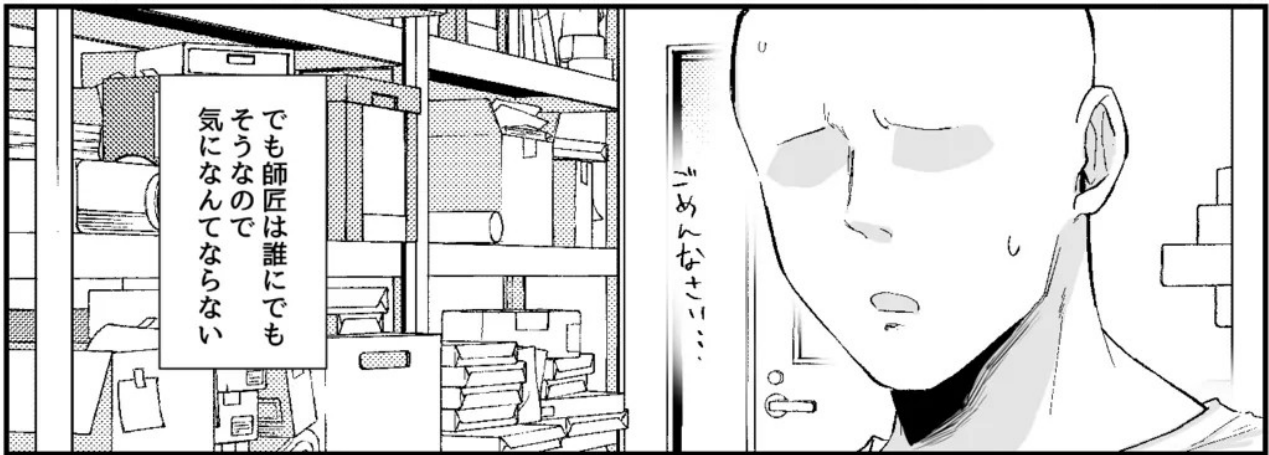
最近使えなさすぎ  
なめてんのか

すみません…

師匠の俺への扱いは  
めちやくちや雑だ  
口も態度もかなり悪い



お前、いいかげんはし  
度不自然に凝視して  
づかれな  
ただでさ  
遅いくせ  
ハカがどこに居るん  
ス、穀潰し。首から上  
たからせめて手は動  
も拾ってやった恩と  
るなら感謝より先に  
年も雑用ばっかやっ  
動掃除機の次くらい  
つ様になったと思っ  
前に下半身をキヤッ  
やったときも多  
は知能が足りな  
下半身がキヤッピ  
る上



でも師匠は誰にでも  
そうなので  
気になんてならない

ニめんなナニ...



最近のミスの  
原因は主に：

師匠がエロすぎるせいだ

おい説教中に勃起  
してんじゃねえ  
殺すぞ

ボキキッ

師匠は俺を男として  
見ていないどころか  
あまり人としても認識して  
いないところがある

かばっ

なんというか…  
スキだらけだ

恩人でもある師匠に  
嫌われたくなくて

頑張って意識しない  
ようにしてたけど…



一緒に生活  
しているだけで

意識がそつちに  
集中してしまう

正直限界だ…

※妄想です



自分でも制御できない  
気持ちいを落ち着かせるために

夜な夜な邪な妄想で  
自慰にふけていた

※妄想です





最悪殺されるつもりで  
打ち明けてみた



我ながら最低だと思うが  
嘘もつきたくなかった俺は



あ終わった



改善しなかったら  
追い出すからな

ふっ

ふっ

それで仕事  
できるなら  
いいか

はあ...

は？...え？



それなら寝てる間は  
好きにしていぞ

...そうか

と思ったが...  
返答は意外なものだった

じゃあ  
そういうことで

今日はもう風呂入って  
寝るから  
今夜から好きに使え

ええ...?  
ど、どういう  
ことですか!?

なるべく綺麗  
に使えよ

ちょ...っ  
ほんとに意味  
わかって言ってます!?

グワニ...

自分が置かれている状況は  
...意味がわからないが

こうして眠っている師匠の  
身体で...夜な夜な性欲を  
発散することになった



嘘じゃないよな!?

急に目を開けて  
殺されたり…

いや、そもそも寝てる  
師匠の身体を弄ぶなんて…っ

だ、駄目だ…  
こんな状況で

が、我慢なんて…っ

ほ、本当に  
寝てる…!?



あつすつごいエロい

恩人にこんな…

うう…っ  
すみません師匠…っ

うわ…  
これが師匠の…

柔らかい…  
それに石鹸の匂い

もーっ

すー

カチカチ



はあ、

んんんん

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

えろ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

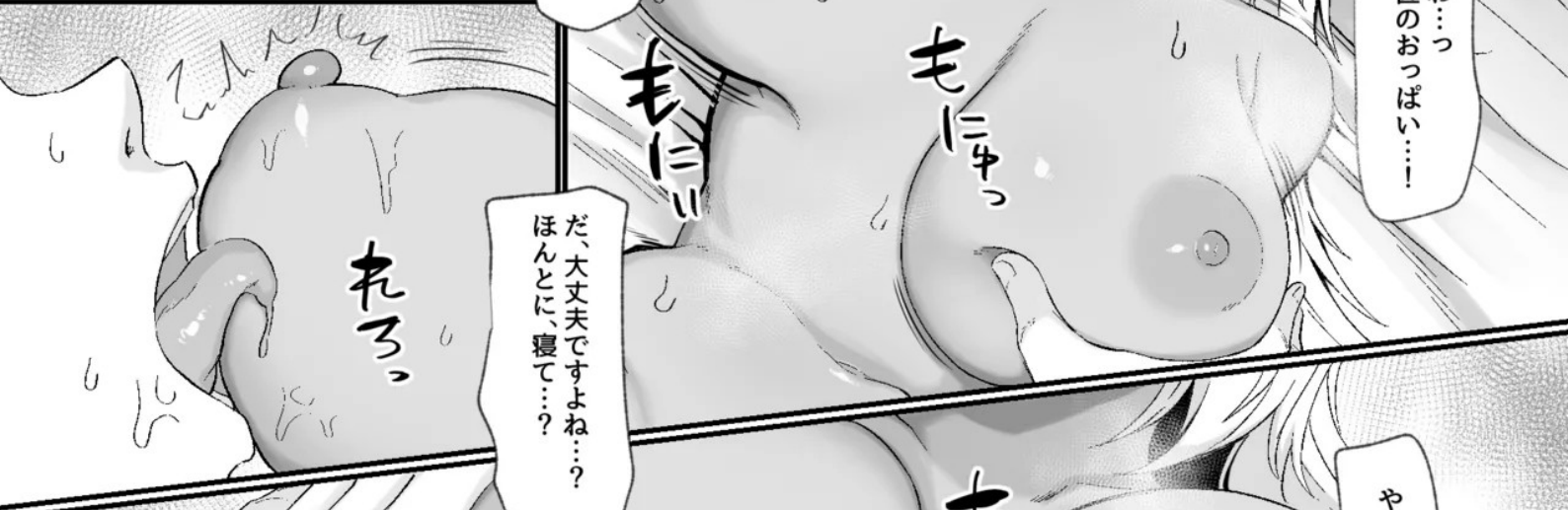
はあ、

はあ、



さ、触れる日が来るなんて…

うわ…っ 師匠のおっぱい…!



だ、大丈夫ですよね…? ほんとに、寝て…?



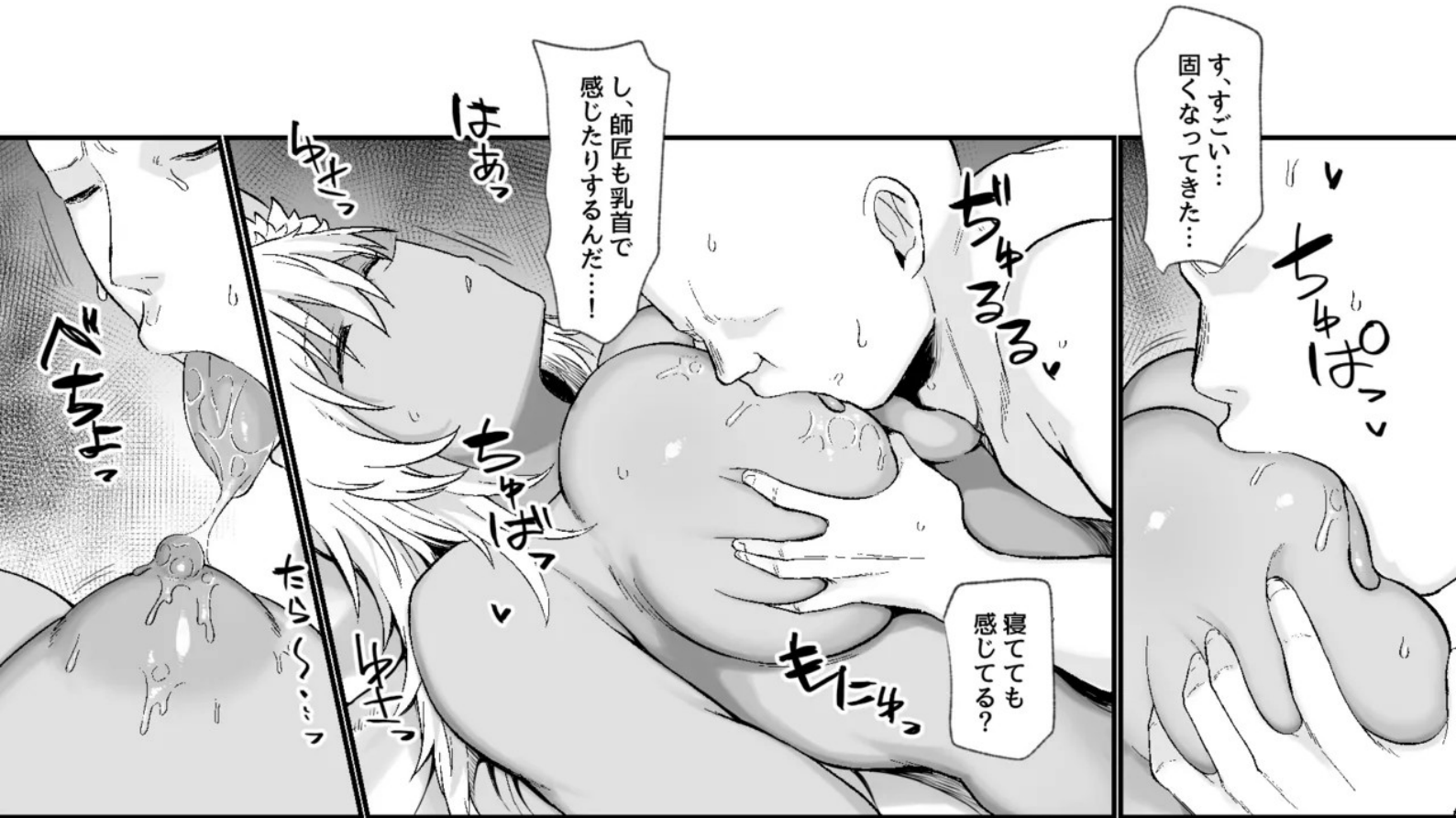
や、柔らかい…



駄目だ… 一生こうしてられる…

はあ

もにゅ



し、師匠も乳首で  
感じたりするんだ...!

す、すこい...  
固くなってきた...

寝てても  
感じてる??



うう...っ  
師匠...っ!



この日は師匠の  
乳房に顔を埋め  
ながら果てた。

師匠が起きる前に  
片付けをして  
身体もきれいにした。

しかし師匠の身体を  
汚してしまった罪悪感で、翌日は  
目を合わせる事ができなかった

また別の日

すみません師匠……!



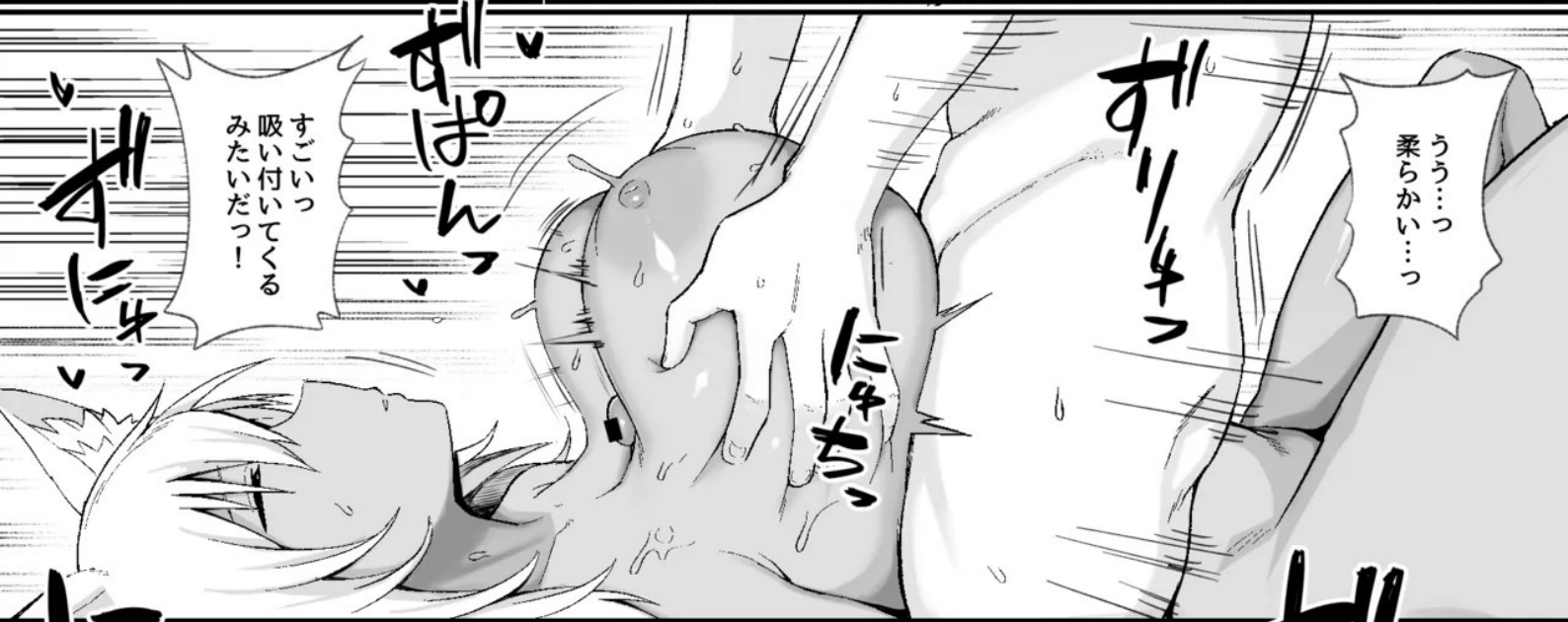
おっぱい  
使わせてください……!

はあ……っ!



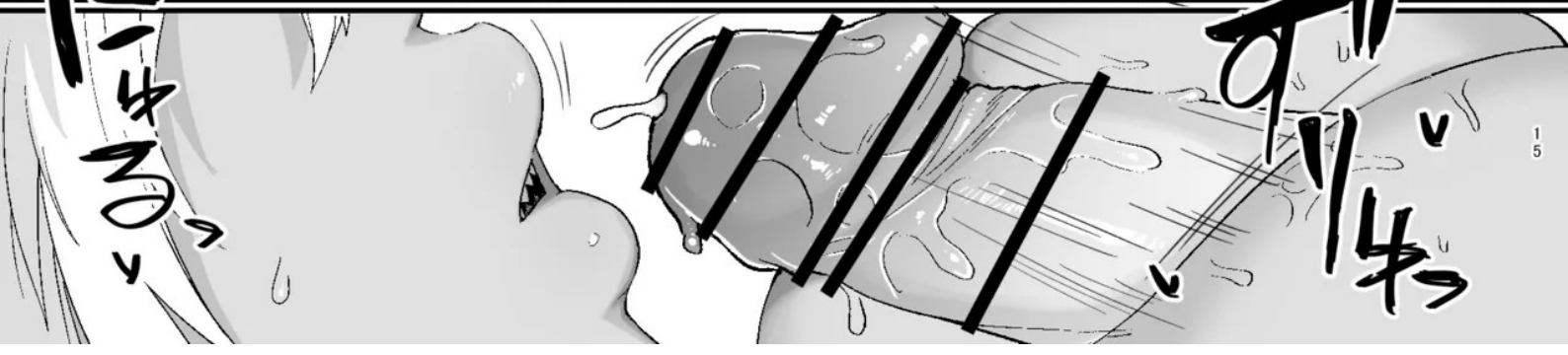
師匠は夜の出来事について  
触れることはなく、

僕に対する態度も、  
今までと何一つ  
変わることはなかった



うう……っ  
柔らかい……っ

すごいっ  
吸い付いてくる  
みたいだっ!





二、三日もすれば完全に慣れ、少しの罪悪感はそれ以上の興奮と快楽に流されていった。



ちやんときれいに拭かなくちゃ…

そして…行為は次第にエスカレートしていった

すみません師匠…また汚し…っ



それでもなんとなく…  
挿入までは至っていないかった

どこまですれば起きて  
しまうのか  
わからなかったのと

たもん

はー

はあ

グワッ…

「一線」を超えて  
しまう気がして…

しかし、ここ数日の性処理で  
わかってしまった。  
「師匠は何をされても起きない」



そんな恩人の  
身体を自由にできる…

この意味不明な状況で  
俺はもう我慢  
できなくなっていた

そして…俺は今日、師匠に  
初めてを捧げることにした

うわ…  
まんこ綺麗すぎる…



まるで電源の入っていない  
人形のようにありながら、  
筋肉の微妙な振動、熱…

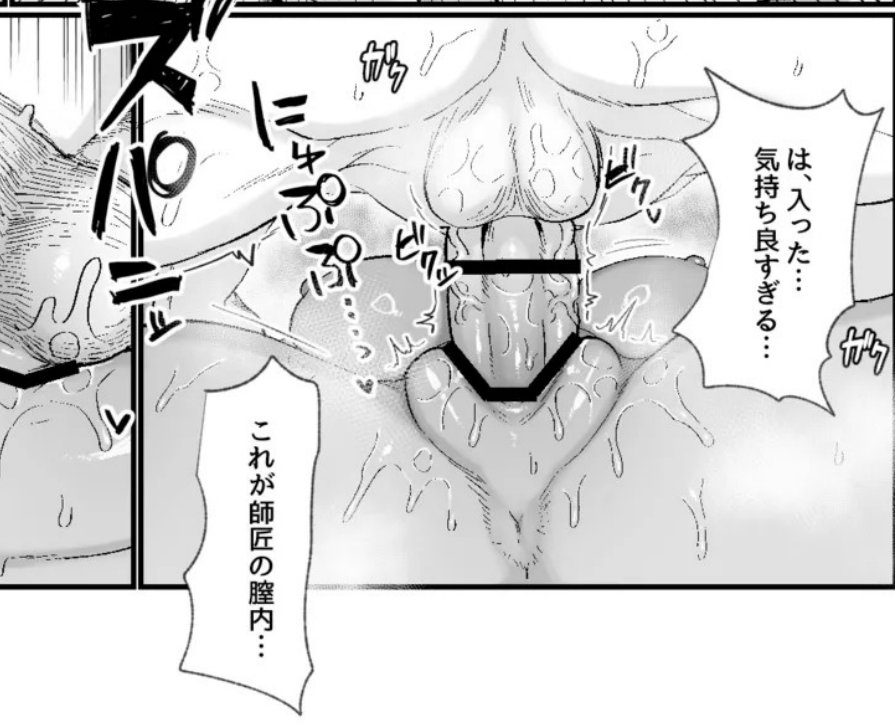
そして僅かだが  
快感に震える身体は  
確かに生命を感じさせた



はあ

はー







うう...っ  
だ、射精しますっ!

師匠...っ  
受け取ってください...!!

うう...っやっばい...  
射精...止まらない...っ!



うう...っ  
気持ちいい...!  
気持ちいいです...っ!

それからは自分でも  
あまり覚えていない

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

し、師匠お…っ

おん

タガが外れてしまったのか  
意識がなくなるまで  
師匠の上で腰を振っていた

おん

おん

何度も師匠の  
膣内へ射精した

おん

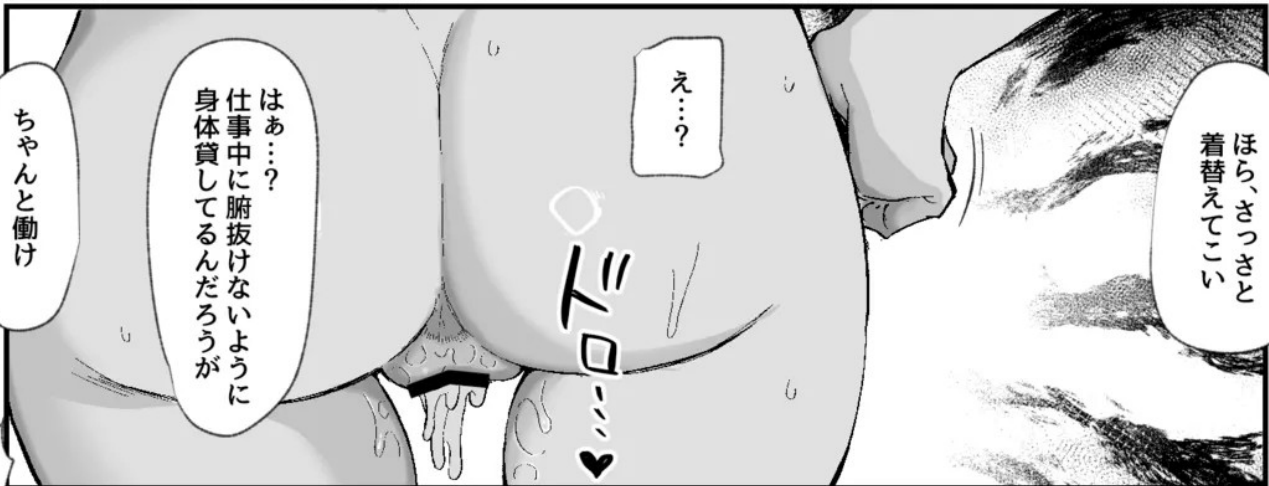
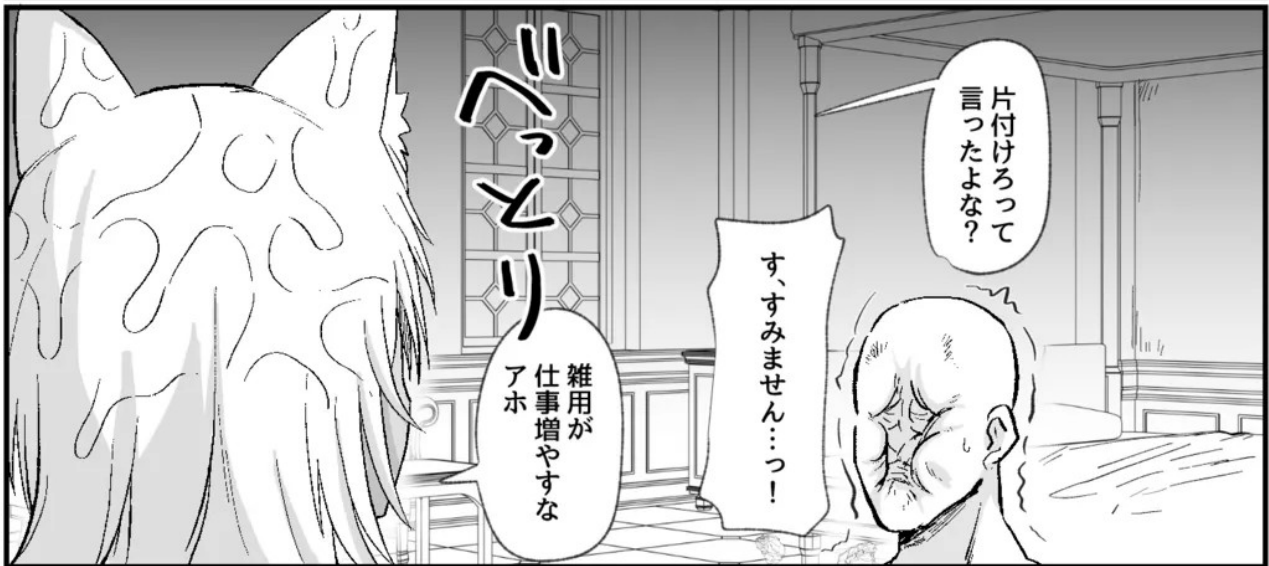
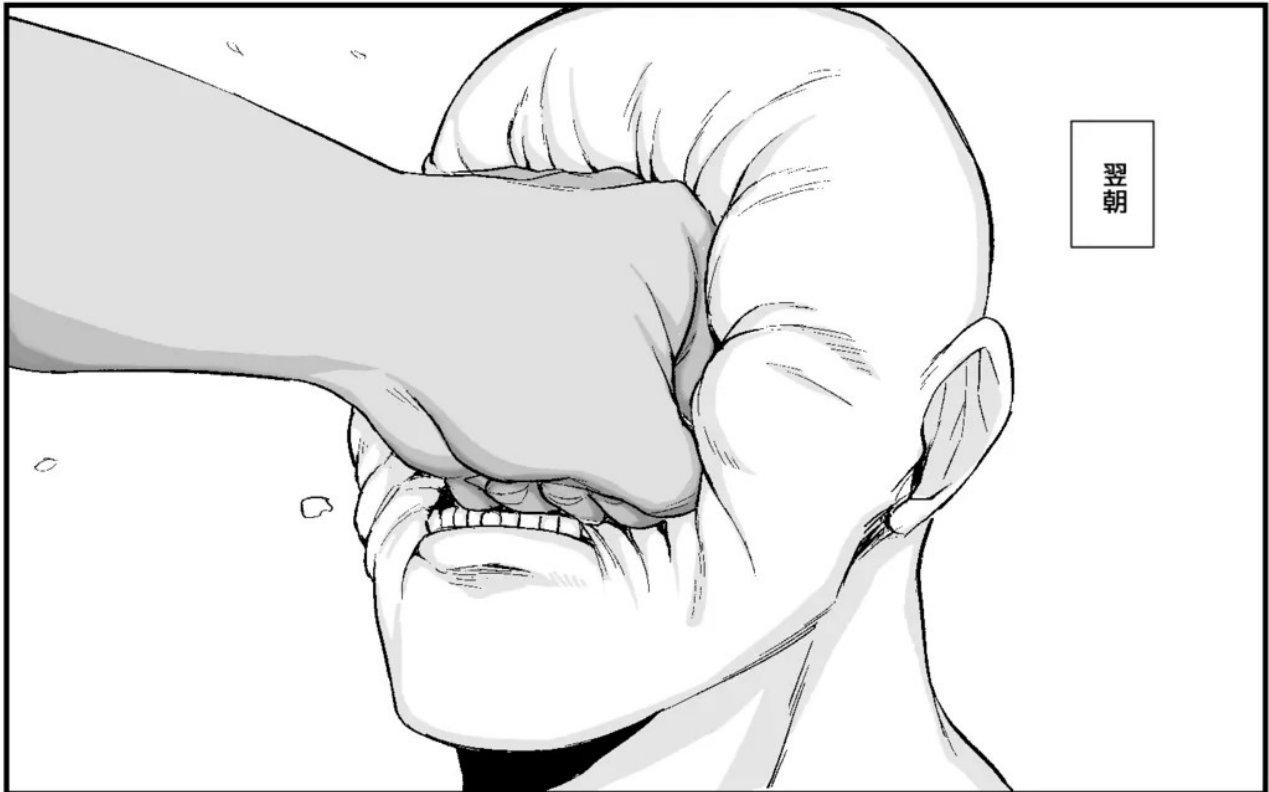
おん

おん





翌朝



…はい！

# 『おやすみからおはようまで』

発行日：2025/8/16

サークル：流刑地

発行者：ゴミ男

連絡先：@gomieros

印刷会社：株式会社 栄光





